	第4回 北部地区街づくり協議会 議事録
開催日時	平成29年2月23日(月)18:30~20:00
開催場所	櫟本公民館 大会議室
出席委員	委員 12名
欠席委員	米杉委員、森田委員、山口委員、落合委員、中西委員、寺川委員
事務局	総合政策課6名、産業振興課4名、生涯学習課1名

議事内容

1. 開 会 -18:30-

2. 市長挨拶

会長

委員の皆様にはお忙しい中ご参集いただきありがとうございます。今回で第4回を迎える協議会ですが、最近の櫟本の進捗を見ていますと地域主導で一番やっていただいているなと思っています。はにわ祭りの際にもいいましたが、多世代を巻き込んでいくところまで地元の皆様が動いていただいている。本日も様々な議案がございますが活発なご議論よろしくお願いします。

3. 議事録の承認

第3回協議会の議事録につき、異議なく承認された。

4. 議事

以下、議事進行は会長が進める。

(1) マチカの進捗、櫟本公民館の活用について

委 員

前回の協議会で地域通貨という形で案を発して何かできるところからということで櫟本小学校校長のご協力のもと、地域通貨からマチカというカードを作りました。子どもたちが誰かのためになることをした時にポイントをもらえる。ポイントを貯めてその使い道については今後学校等と相談しないといけませんが、いずれは、子どもたちの夢を叶えられる事業にそのポイントを利用出来たらと思っています。当初、学習塾でポイントを使わしていこうと思っていましたが、勉強することも自分のためになるので勉強することもポイントになる。貯めて行ったポイントを子ども達の夢を作文か何かでいただいて、そこから厳選して夢の実現のためのお手伝いをする。という風に現在は学校と考えているところです。

子ども達が地域に参加する機会をどんどん増やしていき、そして地域のためになることをするとポイントが貯まっていくことになる。子ども達にそういった機会を与えていってほしい。今後どのような形でポイントを貯めていって貰うかをみなさんと相談して決めていきたいと思います。

会 長

捕捉としまして、先般、はにわ祭りの際に地域のウォークラリーを行い、1年生~5年生に6年生の皆さんが地元の歴史など色んなことを説明された。それを地域貢献と捉えて、そのポイントを使い自分で櫟本公民館での塾を受けに来られた。今後、マチカを基軸に子ども達の地域貢献をどう促していって、子ども達自身の夢を地域全体で叶えていく。委員の皆様方から今後どういった機会にポイントを貯めるか、こういう場所でそれを使えるという意見があるかと思います。櫟本小学校のコミュニティ協議会の皆様が実行していく訳ですがこの場で委員の皆様にもコメントを求めていいでしょうか。

委 員

はい。お願いします。

委 員

頻度をどの程度にもって行くか、あまり増やしすぎても大変ですし、講師の問題もあります。 今回は無料出来ていただきましたが、今後は無料とはいかないと思います。また、色んな講師に 来ていただきたいというのもあり、どの程度の頻度で協力した場合にポイントを渡していくのか が一番大変だと言うことを櫟本小学校の校長とも話していました。

皆さんに協力いただいて櫟本校区だけでなく天理市全体に広めていきたいと考えていますの でよろしくお願いします。

会 長

塾という部分でも頻度や予算の問題があったり、塾以外の部分でも子どもたちがどのような形でポイントを貯める機会を創出できるのかという両方のお話がありました。

委 員

2月8日のマチカ塾を見学しました。学校の先生とコーディネーターの人々が協力しあってーか月くらいの間でプレ開催にもっていかれました。櫟本ならではの地域の強みを感じました。 地域貢献の場をどこで作っていくか。それが一番の問題だと森田委員と話していました。 また、子ども達が楽しそうに参加してくれていたのが一番のことだと思いました。

会 長

子ども達自身が参加感をもって地元に貢献する喜びを感じてもらえることがふるさとを創つくっていく上で大事だと思います。そのポイントを使った部分をどう充実させるかということと、はにわ祭りの次は灯火会になってしまいます。それでは寂しいので、校長先生や校区と議論が必要かと思います。子ども達がこれまでは参加してなかったがこんな場所に来て積極的にやってもらうと今までやっておられた高齢者の方々や役員の皆さんも元気がでるなとかいうところを今後整理していく必要があると思います。

全般として、一回目やってみてこの流れを着実なものにしていきたいということでいいかと思います。

委 員

当初、学習塾でポイントを使うとしていたのですが、先ほども少し言いましたが、使う場はちょっと違う形で設けていきたいと思っています。小学4年生からマチカカードを発行し、4年生の時に夢を作文で出してもらい、卒業するまでにその夢を選抜して最後に残った夢に対して地域が応援していこうと、夢も変更は可能で、最後はポイントを貯めて夢を叶えらる子が何名か出てくる。そうするとポイントが貯まることが楽しくなるだろうし、それに付随して塾にもきてもらい勉強も楽しくなって貰いたいと思います。

会 長

参加をする子どもの視点になってどんどんやっていきたいという気持ちにどうしていくかが 大事で、夢を実際に叶えていくという方向性も作っていきたいというご発言でした。夢を持てば ふるさとが叶えてくれるとうい形態は大人になっても重要かと思います。今後は基本的にコミュ ニティ協議会と校区で相談していただきながら機会の創出や夢の叶え方について詰めていって いただければと思います。

二番目の議題について、伝・山の辺の道の活用、発信について、ご説明お願いします。

委 員

伝・山の辺の道の活用、発信で道標を作ろうという計画が天理市と北部活性化プロジェクトと協同でやろうということで3 k mの間に合計2 1 本の道標を建てるということになりました。現地の調査や各地区の地権者と同意などを取って、形になりました。近畿大学で作っていただいた現物のサンプルがここにあります。天理市の方では graf の服部さんがデザインされたものがあります。合計2 1 本の道標をできるだけ共通のイメージをもって北部プロジェクトは手作り感を出しています。設置場所は1 1 ヶ所決まっています。北部プロジェクトの方は可動式ということで回りをブロックで固定する形をとろうと考えています。

会 長

奈良から人を引っ張ってくるにあたり、伝・山の辺の道が大事だとういことで議論してきましたが、地域のみなさん自身で発信いただくことが訪れられた方への発信力として大事だと思っています。道標をどのように活用していくか、今後の展開についてご意見いただければと思います。

委 員

伝・山の辺の道の道標はいいものだと思います。それとは別に上ツ道の話をしていいでしょうか。それも結局表示の方法の一つですが、今現在、伝・山の辺の道については協議の中で決めたところに道標を置きますが、帯解駅から上ツ道にかけて高井病院の西側に櫟本駅にあるような図面的なものを蔵之庄町の自治会の方で活性化のためにお願いしたいと要望されています。その辺りも今の話とは別になりますが考えていただきたい。その場所については自治会の方で地権者に了承を得ているようです。それも一つ北の方から回ってくることについて考えていただきたい。地元で作成する道標は木造なので、倒れてしまう、腐ってしまう、やるのであれば地元でする分も行政と協力して作っていただけたらと思います。

委 員

地元で作成する道標は天理ライオンズクラブからの寄付と北部プロジェクトの予算で作成しています。

会 長

色んな方が関与していくなかで、自分自身のことと捉えてくださる人も出てくるのではないか と思いますし、行政の方も設置して終わりではないと思っております。

委 員

現在、石上から桜井へいっている道標と同じものをするということですか。

会 長

ご指摘いただいているように地元でその時の考え方で独自に作っていただいていても、それが 持続しない場合はどうしても傷んでしまったりします。今回はそれを1回で終わりではなくてど う継続的な取り組みとしてできるかが委員が仰っているように重要だと思います。そこからする と、道標にかかれる小学生の絵が更新されていけば受け継いでいく形になる部分かと思います。

【地元道標の作成課程とサイクルラック作成について近畿大学より説明】

委 員

補足として、現時点では櫟旅の時に近畿大学さんと米杉建設さんとで作っていただいたサイクルラックを石上神宮に設置していただき、目に留まっている状態と聞いています。そのような形で寺社仏閣に重厚感のあるものを購入していただき配置していただきたいと思っています。今日新たに簡易的な形の案もいただいているので地域的なブランドとして櫟本から発信できればと思います。

会 長

歩かれる方と奈良から自転車ということでラックも併せて考えていただいているとのことです。来年度は実際どのような形でウォーキング、サイクリングの行事を打っていくかという話になっていくかと思いますがご意見等ありましたらお願いします。

委 員

道標ができたらもっと櫟本の北部の道を知らしめていきたいと思っています。ウォーキングの イベントをする必要もありますし、より多くの人に知ってもらう方法も案内板も考えながら計画 を練って、櫟旅とサイクリングツアーを奈良から天理、法隆寺から天理という四方八方から来る ようにしたい。サイクリングコースも併せて情報発信して計画していきたいと思います。

会 長

周遊観光の活用について議論してきたいと思います。市の方で雑誌社と組んで八木駅から奈良までのイベントをしたことがあります。その映像がありますのでご覧ください。

【イベント映像】

会 長

公民館などが休憩スポットになったり、和爾下神社や地元の道がしっかり発信していければこのような人々が増えてくると思います。もう一つ、天理の移住定住促進のために作った映像もご覧ください。

【めぐみめぐるてんり映像】

会 長

市全体のプロモーションのものになっています。地域の人だったり歴史だったりがめぐっていくのが天理なんだという売り出し方をしようと準備検討を進めています。森田アロエさんのところが新商品を一緒に開発していまして、そういう産品が出てきた時に何が天理の品物なのかが製造元を見ないとわからなかったのが弱さだったので、協力いただいける方とどんどんこのロゴを出していくことで、知らない人でも天理のものだとわかるような仕掛けをしていこうと動いています。ものづくりだったり周遊観光だったりで地域や近畿大学の皆さんとの協力の中で動いて行っています。まこも茶についても成分検査結果が出たということで、近畿大学から報告があります。

【近畿大学による、まこも茶の成分検査報告】

オリゴ糖が検出され、カフェインレスであることが説明された。

会 長

結論からすると、水出しで二時間が一番おすすめの飲み方だということです。今後の展開とするとカフェインレスであるところをしっかり打ち出していき、甘味もあるので食事中に飲むのが適しているのではないかという分析をしていただいて可能性が確認されたのかなと思います。

近畿大学

補足としまして、まこも茶はジャスミンティーに似た独特の香りがあります。台湾料理のよう に脂っこくて味付けが強い料理に合うのではないかと思いました。ピーナッツがまこも茶にすご く合ったので、そういうものとセットで販売などのセットアップも色々可能だと思います。

会 長

飲み方の提案だったり、櫟本の物産と組み合わせた形の販売ということも議論していければと 思います。今回の成果としては和爾営農組合さんが作っているマコモタケの新しい可能性を近畿 大学さんと連携をしていただいて化学的な部分も確かめていきながら進めて行く第一歩だと思 います。

委 員

近畿大学が、マコモタケのラッピングやまこも茶の新しいパッケージを考えてくれています。 紙を地元の地図を使った折り紙のような形のパッケージも考えています。協議会ではなく、その 下に委員会という形を作ってブランドの商品化などを図るように次年度持って行けたらと思います。

会 長

色んな当事者の方々が工夫しながら産品を活かしていくかという流れが非常に大切かと思います。

委 員

まこも茶はどんなものかと思って、畑を見に営農組合のところへ行ったけれど、どれがマコモ タケかわからなかった。これがマコモタケだとわかる形に出来ないかと思いました。これがマコ モタケだという宣伝ができればと思います。

会 長

市の中で、マコモタケをどれだけの人が知っているかというと、まだ知らない方が多いのかなと思います。南檜垣町に味間イモとかありますが、それもあまり知られていないので、そういったものをちゃんと繋いでいくことが市全体としてやらないといけないことだと思っています。今、天理駅前も工事をしておりまして、4月にはオープン予定です。その中のレストランカフェ部分では地元の食材を使った料理も提案されたり、色んな商品開発を行なっているものが観光案内所であったナビ天理がアンテナショップに変わります。市の色んな特産品を集めて売るという機能を設けていく予定です。天理駅前を工事していて櫟本皆さんに何か関係あるのかなと思われる方もおられるかもしれませんが、ここにサイクルショップができたり、市の中心部でも櫟本を発信していければと考えています。

委員

A コープでは試食会もしていますので、だいぶ浸透してきていると思いますが、市全体としてはまだまだだと思います。まこも茶の効能などがあればそれも教えていただきたいと思います。

近畿大学

効能についてうたっていければいいのですが効能効果をうたっていくと薬事法の関係がでて きますので、効能を出していくのは難しいと思います。

会 長

マチカについては今後、継続的にどういう機会にポイントを得られて子ども達の夢を応援していけるか、伝・山の辺の道の活用については、道標が設置されてくる中で、実際にそれを使った回り方を提案していけるか、まこも茶については生産者の皆さんと連携し、市内外に知ってもらう機会を作っていくという議論だったかと思います。

委 員

櫟本の駅前の観光案内板はどのように進展していますか

事務局

街づくり基本構想で計画的に手順を踏んでやっていく形になります。

会 長

行政が業者さんに機械的に発注していくより、熱心に活性化プロジェクトもやっていただいているなかでどういう内容を盛り込んでいくべきなのか、どういう風に作るかということも含めて参加型でやっていくと、櫟本駅の前に置くにあたって多くの人に櫟本の気持ちを発信するということにもなってくるのかなと思います。朝和や柳本の方では県と連携したマップ作りもやらしていただいています。山の辺の道などを歩くのに、帯解駅など電車での出入りが出来るのが強みだと思います。奈良から出たらタクシーでないと帰れないという訳ではない。バスなり電車なりがある、駅やバス停をきちんと表示していくのが大事だと思っております。

また、道標は鉄製で永続的なものも大事ですので市が設置しますが、それが全部になると櫟本のみなさんの参加や伝・山の辺の道をご存知なかった人達に知っていただく機会になっていることを考えると、腐って危険性が出てくると問題ですが、このような、みんなで作り上げていくことも大事だと思っています。

委 員

みんなの民意を図ってやるのもいいと思いますが、この道自体が 1300 年前からある道ですから永続的に続く形を行政として守っていく必要があるのではないかと思います。

会 長

今回は行政の方で設置する数が決まっていますが、永遠にそれ以外に作らないという趣旨ではありません。プロジェクトや近畿大学のみなさんから提案いただいているので、折衷していきながら展開を考えていくということでよろしいでしょうか。今、設置に向けて既に動いておられると聞いていますが。

委 員

11本作るということで既に動いています。

会 長

活性化のみなさんとライオンズのみなさんがその趣旨に賛同されて資金の部分も協賛された ということで、元々は市のものだけでしたが、それだけでは本数も足りないのではないかという ことで、市の方も相談させていただいていたと思います。

事務局

市の方も予算が限られていますので一度のできるのは10本程度ではないかと、そうしますと、歩かれる方にとって距離が拡がりますので、北部活性化プロジェクトの方でやろうじゃないかということでお願いし今進んでいるところです。

会 長

逆にそれが同じように工場で作るものだったら大学のみなさんやライオンズのみなさんに協力いただくこともなかったのかと思います。

委 員

そうだと思います。手作りで作るなら少し良いものをどうかということで、それを今日は見本 でお持ちしました。色んな意見がありますが、とりあえず現在の木製サンプルに近いものを作成 したいと思います。

会 長

今、めぐみめぐるてんりということで来年度にホームページも作成し、しっかり周遊観光の情報も発信していきたいと思います。道標との組み合わせ等について事務局から説明お願いします。

事務局

市の方には観光的な HP もあります。他にはアプリで歩いて行けるものもあり、そこには GPS 機能を使って目的に向かっていくことができますので、新しく出来たコースの写真を撮って、天理市と観光のホームページやアプリなどに発信していき PR していきたいと考えています。また、トイレマークや眺望スポットも道標に入れていこうと思っています。

委 員

道標に関してですが、季節によって日暮れが早くなると道標がどこにあるのかわからなくなる ので、簡単な反射板などが付ければいいのではと思いました。

【その他、道標デザインの細かいところについては道標案1と案2それぞれの良いところを採用することで、全委員同意。】

会 長

今年度は最後になりますが、次の協議会までには実際に色んなことが動きだしている中をマチカなど含めてご確認いただく機会になるかと思います。

また、北部地区の街づくりの基本構想をお配りの最終案で県と締結させていただいてよろしいでしょうか。

【全委員同意】

会 長

それでは本日も長時間ありがとうございました。

5. 閉 会 -20:00-